

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
L202	都市の歴史 / 都市の歴史 I	2年	講義	2	寺内由佳
<b>授業概要</b> 都市の成立と発展について西洋と日本における概要を比較したのち、日本の「伝統都市」としての近世城下町、地方都市の一類型である宇都宮の都市史を学習する。主な基本史料は市内に現存する古文書・絵図等とし、江戸時代の宇都宮城下で生活した民衆(町人・商人層)を対象に、“ふつうの人々”の有り様をみることで、このまちのリアルな歴史を紐解いていく。また、江戸時代から続いている商家や祭礼・年間行事などを扱い、現在のまちなみや生活にとけこんでいる都市の歴史を学習する。					
<b>到達目標(学習の成果)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市や都市社会の歴史を認識するための基礎的な感覚を身につけることができる。(DP2)</li> <li>・地域の歴史に関する知識を習得し、身近な生活のなかに歴史的意義を見いだすことができる。(DP2)</li> <li>・地域の歴史的事象・景観に対する活用や保存について考えることができる。(DP3)</li> </ul>					
<b>授業計画</b>					
回	表題	学修内容			
1	「都市史」への入口	〈「歴史」を学ぶ〉ことや〈都市の歴史を学ぶ〉ことの意味・意義を考え、「都市史」の視点をとらえる。			
2	都市の成立と機能	西洋都市の成立・発展とその性格を、日本との差異を意識しながら学ぶ。			
3	近世の都市	近世都市に視点を絞り、西洋と日本の比較および「伝統都市」と称される日本の城下町の類型・機構について学ぶ。			
4	近世城下町・宇都宮	城下絵図などを活用しながら、藩による城下町の整備について学ぶ。			
5	近世都市・宇都宮の機能	宇都宮が持った城下町・門前町・宿場町という三つの都市機能を学ぶ。			
6	宇都宮の商人	江戸時代の宇都宮にどのような業種の商人がいたのか、またどのような商家が現在まで続いているのかを学ぶ。			
7	まちと祭礼① 付祭りの栄華	江戸時代後期の宇都宮明神(現二荒山神社)・付祭り(現菊水祭、毎年10月最終土日開催)に関する史料(絵画・番付など)から、当時の城下や民衆の活気を学ぶ。			
8	まちと祭礼② 祭り都市社会	①の内容をふまえ、祭りを通して浮き彫りになる地域の性格や、都市における意義を考える。			
9	寺町 佐野屋治右衛門・孝兵衛	宇都宮城下を代表する富豪の一である寺町・佐野屋(古着・呉服商)について学ぶ。			
10	寺町 沢屋宗右衛門	寺町の古着商人・沢屋宗右衛門について学ぶ。			
11	宮嶋町 丸井屋伊兵衛	宮嶋町の古着商人・丸井屋伊兵衛(現丸伊呉服店)について学ぶ。			
12	宇都宮の古着商人	上記3家の概要をふまえ、宇都宮古着仲間の動向と古着商売について学ぶ。			
13	古着の流通にみる宇都宮	古着が流通する様相から、宇都宮が持つ都市機能を学ぶ。			
14	宇都宮の正月 —おせち料理と上河原町初市—	商家の祝い料理に関する記録から、当時の節日・ハレの日における慣習を学ぶ。 また、毎年1月11日に上河原通りで行われる初市について、市が始まった江戸時代の様相を学ぶ。			
15	幕末の宇都宮	戊辰戦争の激戦区となった城下の様相と、戦争に民衆がいかに関わったのかという点を、商人の日記や証文などの史料から学ぶ。			

準備学修(授業外の自己学修)  
授業内容をよく復習し、知識として定着させること。

成績評価の方法・基準(%表記)  
授業態度 40% (毎回コメントシートを配布、回収。)  
期末試験 60% (記述式、持ち込み可。問題は事前の講義で伝える。)

観点	S	A	B	C
都市史・都市社会史の基礎的な理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
地域の歴史に対する理解	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
地域の歴史の活用・保存に対する課題	完全に理解できている	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている

教科書  
毎回、プリント(レジュメ・関連資料等)を配布する。

参考書等  
なし

履修上の注意・学修支援  
出席を重視するため、2/3以上の出席に満たない場合は期末試験の受験を不可とする。